

今後の行財政改革の取組におけるキーワード・キーフレーズ

1 委員回答数 : 30件

2 行財政改革協議会委員からの主なキーワード・キーフレーズ

No.	キーワード・キーフレーズ 区分	概 略	回答数
1	行政運営全般	今後の社会情勢等を見据えた上で本市に求められる理念的な内容が含まれるもの	9
2	施策全般	全般論として施策形成に影響を与え得る内容が含まれるもの	6
3	ICT・情報化関連	情報通信技術の活用や情報化に伴う格差対応を行財政改革の取組の視点として取り上げているもの	4
4	財政関連	歳出抑制や歳入増など財政的な観点が含まれるもの	4
5	市民協働関連	市民との協働や地域づくりを充実させるための行財政改革の取組の視点として取り上げているもの	3
6	防災関連	震災への対応など防災対策を行財政改革の取組の視点として取り上げているもの	2
7	外部評価関連	外部評価に関する内容が含まれるもの	2
合 計			30

3 行財政改革協議会委員回答一覧(区分別) : 別紙のとおり

別紙 行財政改革協議会委員回答一覧(区分別)

No.1 行政運営全般 (9件)	
キープフレーズ	選定理由等
① 持続可能な自治体経営を目指して	人口流失や少子化などにより存続できなくなることが想定される自治体がある中で、藤沢市も例外ではないという危機感を持ちながら、経営という視点で行政を運営する必要があるため。
② 未来を見据えた戦略的かつ大胆な改革	今後予想される劇的な社会変化等を見据えると、漸進的な改革では不十分と見られるため。
③ 様々な変化への柔軟かつ迅速な対応	当初想定とは異なる状況となる可能性が十分にあり得ると考えられるため。
④ 時代の先端を行く斬新かつ挑戦的な取り組み	横並びではなく、藤沢市ならではのイノベティブな取り組みが望まれると考えるため。
⑤ 大きな自治体、機敏な藤沢市	市民への施策やサービス提供を、どのくらいの規模で、どの程度の予算で行うかを、常に精査するとともに、機敏な動きをともなったフットワークの良い行政サービスを心掛けること。
⑥ 止める勇気と、新たな挑戦	藤沢市43万人の市民の動向を常にみながら、その役割を完了した施策を止めることも英断をもって行う。それと同時に、今、藤沢市に期待されているサービスを見落とすことなく、新たな施策にも挑戦する。
⑦ 持続可能な市民生活に向けて	①人口、②年齢構成、③税収一帯が今後厳しくなっていく状況をふまえて、市民生活のレベルを落とさぬ様に充実しなければならない事項と見直していく事項を検討する必要があるため。
⑧ 情報伝達	藤沢市における「ビジョン(ありたい姿)」、「現状」、「課題」と、その「原因」および「解決策(案)」などが、「市民」に『伝わる』ように、「更なる」努力・創意工夫・取り組みが必要だと思いました。
⑨ マネジメント	会社組織であれば、社会に貢献して利益をだすことを目的に、マネジメントという「機能」が創られていきますが、行政や地域のマネジメントはさらに難しいと認識しています。だからこそ、藤沢市の「マネジメント(「機能」)」を創ることに挑戦してもらいたいと思いました。
No.2 施策全般 (6件)	
キープフレーズ	選定理由等
① 都市の機能と活力を高める	都市という集合体を、機能的なものにするにはどういった施策が必要か。活性化するにはどのような施策が必要か。
② 声なき市民に寄り添う	多くの市民の中には、母子家庭、父子家庭で低所得の現状で毎日必死に頑張っている世帯があろう。これらの市民は、仕事を掛け持ちして生計を立て、「大変困っている。」と声を上げる機会も時間もない人々である。この人たちの声なき声をきちんと捉え、その生活に寄り添う温かさが必要である。

③ 子育て世代・高齢者への施策の充実	藤沢市は、子育て世代の転入者が多く、また、今後も高齢化率は上昇を続けることが明らかなことから、人口の多くを占めるこうした人達への施策は必要であり、かつ、期待されている。
④ 魅力ある街づくり	都市としての魅力を再認識し、強化する企業(特にAI・情報・環境などのソフト)が立地したくなる街にする。人々が住みたい街にする。人口減を少なくし、又、財政収入を増やしていく。
⑤ 「人材」を「人財」に ☆「2:6:2の法則」から脱却 ☆	1. 資源に乏しい日本が世界と肩を並べるには「人財」の輩出が不可欠 2. 教育と指導の強化で、「人材」の中から一人でも多く「人財」に引き上げる 3. 業務遂行のあり方を改め、女性の「人財」を一人でも多く見いだす 4. 労働力不足解消策の一環として、シルバーパワーを活用する
⑥ 真に豊かな社会実現の為、「平均寿命」「健康寿命」「財産寿命」を伸ばす	1. 高蛋白・高カロリー食材の摂取で平均寿命は世界のトップ水準になった 2. 健康寿命を伸ばす為、脂肪酸の摂取と社会との関わりを維持する必要あり 3. 預金を資産運用に切替え、インフレに対応可能な運用で財産寿命を伸ばす

No.3 ICT・情報化関連 (4件)

	キーワード	選定理由等
①	スマート自治体	実現するとよいと希望的選択
②	スマート格差	スマートシティ化が進む中、新たな格差社会が生まれることへの対応を検討する必要がある。
③	行政手続を紙から電子へ	今後一層の高齢化が見込まれる中、高齢市民にとって窓口に来ることは負担であり、職員にとっても窓口対応など職員数を増やせない状況下、手間と時間がかかる。また、紙媒体で提出された書類を入力することは二度手間であり非効率である。
④	ITリテラシーを向上させ、国際競争力を回復させる	1. ICT利用技術・AI分野に於いて、もはや、日本は先進国とは言えない状況にある 2. 国際競争力回復の切札は、ITリテラシー(Literacy)に求めるべき 3. 親の経済力で、ITリテラシー修得に差が出ない様に配慮する 4. 高齢者の間でデジタルデバイド(情報格差)が広がらない様に留意すべき

No.4 財政関連 (4件)

	キーワード	選定理由等
①	財政改革	出費を抑えるだけでなく、出費の内容を充実したものにし、減少のみを求めない改革が重要
②	新たな財源の確保	社会構造が変化する中で新たな財源を検討する。
③	集中と選択	今後更なる施策の充実が求められる分野は上記のとおりと考えられるが、そのための財源(歳入)は大幅な増が見込まれず、財源不足はふくらむ一方であることから、他の政策分野については思い切った抑制をかけるなどの対応が必要。
④	少子高齢化	今後何年続くかわからないくらいの高齢化と少子化。市の歳出の中で群を抜いて高い民生費。この部分を取組の対象としていかなければ、今後ますます厳しい状況になるものと思います。

No.5 市民協働関連 (3件)	
キーフレーズ	選定理由等
① 市民と共に考えるイノベティブな自治体経営	藤沢市を船に例えると、近い将来の危機的な状態は乗組員(市の職員)だけでは解決することができないので、乗客(市民)と共に革新的な経営手法を考え出す必要がある。さもないと、タイタニック号のように沈没してしまうという危機感を持つこと。
② 自助>共助>公助	市民が個人・家族と地域コミュニティの中で、豊かな安心安全な街をつくり、住むことを行政が支援する仕組みを強くする。
③ 合意形成	市民の皆様も様々な価値観や考え方を持っているため、「すべての合意」が得られないとしても、「真摯」に説明等を行い、なるべく多くの方に協力・参画してもらえるような取り組みを行う必要があると思いました。
No.6 防災関連 (2件)	
キーフレーズ	選定理由等
① 市民が安心できる防災対策	確実に訪れる震災に対応する。
② 防災、危機管理	改めて、市民の生命と財産を守るための仕組みを整備する(2021年は東日本大震災から10年、2023年は関東大震災から100年)
No.7 外部評価関連 (2件)	
キーフレーズ	選定理由等
① 事務事業の課題	検討される事業について、全体と一部が評価対象と表示となっていますが、その事業の全体を見なければ理解できない事があります。まして、課題は、所管課が考えることと一致しないこともあると思います。
② 評価対象事業の数	今年度4事業を選び、その中の2つを担当するという事で自分なりに調べて参加しました。素人の自分では精一杯と思いましたが、この程度の事で何か変化が見えてくるのかと心配に思います。市の現状を考えると、あまり悠長に構えてはいただけないと実感しました。人数を増やして検討事業を増やす等できればと思います。